

台湾で発見された新種ネツタイランが

日本にも分布しているのではないか

夏井高人 (カラー 4 ページ)

2010年7月のことになるが、ラン部会誌の編集作業のため三橋俊治氏のお宅を訪問した際、「ヤクシマネツタイラン」との札が挿し込まれた鉢に植えられたネツタイランの花を見せていただいたことがある。ヤクシマネツタイランにしてはちょっと変わっているという印象を受けたが、そのときはヤクシマネツタイラン (*Tropidia nipponica* Masamune) の個体変異の範囲内だろうと簡単に考えていた。

その後、ネツタイランの仲間について調べていたら、台湾で新たに発見されたネツタイランのことを書いた論文がネット上で公開されているのを見つけた。

A New Species of *Tropidia* (Orchidaceae) from Southern Taiwan
Ching-Long Yeh, Chong-Sheng Leou and Chuan-Rong Yeh

[http://www.tsps.org.tw/document/paper/new/031%20A%20New%20Species%20of%20Tropidia%20\(Orchidaceae\)%20from%20Southern%20Taiwan.pdf](http://www.tsps.org.tw/document/paper/new/031%20A%20New%20Species%20of%20Tropidia%20(Orchidaceae)%20from%20Southern%20Taiwan.pdf)

この論文でヤクシマネツタイランとは異なる種類の植物として書かれているランの名前は、*Tropidia angustifolia* C.L. Yeh & C.S. Leou だ。もちろん、日本の図鑑には一切書かれていない。Flora of China では、この論文を引用しながら、「狭葉竹茎蘭 (xia ye zhu jing lan)」との中国名を与えている。

Tropidia angustifolia C. L. Yeh & C. S. Leou, *Taiwania*. 54: 140. 2009.

http://www.efloras.org/florataxon.aspx?flora_id=2&taxon_id=250092576

識別の方法は、唇弁の形状と大きさの特徴にあるようだ。きっと2012年にも開花するだろうから、そのときにはもっと丁寧に観察させてもらおうと思う。そして、もしこの個体が狭葉竹茎蘭であり、かつ、日本国内産のものであるとすれば、日本にも新種のランが自生していることになるだろう。

なお、ラン部会の会員が栽培しているものとしては、小田倉正圀氏が栽培している個体は典型的なヤクシマネツタイランだと思われる。



左：問題のネツタイラン

右：小田倉氏栽培の典型的なヤクシマネツタイラン